

広告

知ってほしい 福島の問題 「除去土壌」のこれから

主催/環境省 後援/全国地方新聞社連合会

東京電力福島第一原発の事故の後、福島県内の除染によって生じた「除去土壌」について考える対話フォーラムが、3月19日、福岡市内で開催された。復興の歩み続ける福島に重くのしかかる課題について、対話を通して理解を深めていただくという趣旨で昨年実施、オンラインを含め4回目の開催になる。山口環境大臣や専門家らが、登壇した若者代表や会場及びオンライン参加者から寄せられた質問に答えながら再生利用の必要性や安全性について議論を交わした。



環境大臣 山口 壯 開沼 博氏 東京大学大学院 情報学環准教授 高村 昇氏 長崎大学原爆後障害医療研究所 教授 東日本大震災・原子力災害伝承館 館長 カンニング竹山氏 お笑い芸人 榎山 侑輝氏 九州大学3年生 佐藤 奈菜氏 長崎大学卒業、福島県在住



「自分の事」と受け止めて

山口 2011年の東日本大震災・原発事故から11年が経過した。原発事故の後、福島県で行われた除染によって生じた除去土壌については、2045年までに福島県外で最終処分することが法律で決まっています。これは福島の復興に向けて、残された重要課題の一つ。最終処分の実現については、処分量を減らすために、安全性の確保を前提とした除去土壌の再生利用が重要だ。

一方、県外最終処分の方針についての認知度は福島県内で約5割。福島県外では2割を切っているのが現状だ。除去土壌の問題を日本全体の「我が事」、自分の事として受け止めていただきたい。きょうは除去土壌の課題、再生利用の必要性、安全性について、対話を通して理解を深めていけたらと思う。

開沼 除去土壌の中間貯蔵施設を受け入れた大熊町、双葉町の方々は、被災して、さまざまな苦労を重ねた中で、復興のためにはいえ苦渋の決断をされた。その重い決断あって、除染を終えた場所の環境再生が進んでいる。町の皆さんの思いを深く受け止めてもらいたい。

竹山 最初は「なんだかんだ言っても危険だろう」とすべて疑っていた。しかし、震災後、福島に何十回も通って、農作物や処理水、除去土壌の問題など、いろいろな話を聞くうちに「ここまで安全なんだな」ということが分かってきた。まず、皆さんに「こういう問題があることを知っていただく、福島の実情をお伝えでき

ればと思う。」山口 除去土壌とはどういうものか知っていただきたい。双葉町、大熊町の皆さんのご協力の下、21年度末、中間貯蔵施設への搬入が概ね完了予定。放射能濃度が低い除去土壌を再生利用する実証事業を飯館村で行っている。

高村 再生利用する除去土壌の放射能濃度は1キログラムあたり8千ベクレル以下で、作業する人やその土を利用する人たちの被ばく線量が年間1ミリシーベルトを超えないように管理されている。さらに、土を覆いかぶせることで飛散し、洪水などによる流出や飛散を防止する安全策をとっている。胸のレントゲン写真撮影で1回当たり0.1ミリシーベルト検査では5〜10ミリシーベルト。100キログラムの放射線量を一度に浴びると、がんになるリスクが0.5%上がるが、100キログラム未満ではがんのリスク上昇は証明されていない。

佐藤 安心と安全は違う。福島県内で保健師として働いている立場から、健康影響上「安全」とされた基準が、地域の人にとって安心できるものとは限らない。どうすれば地域の人の安心を得られるか伺いたい。

参加者からの質問と回答(抜粋)

Q 本当に2045年までに最終処分できるのか?
佐藤 いくら科学的データが示されても人の気持ちが追いついていくかどうか。2045年まで時間はあるが、丁寧な説明が必要だ。
山口 2045年までの県外最終処分は法に定められた国民との約束事で、必ずやり遂げなければならない。その実現の鍵を握るのが再生利用。安全性など、事実をしっかりと伝えて国民の理解を広げていきたい。

Q 双葉町、大熊町の中間貯蔵施設を現地で見学することはできないか?
室石 コロナ禍で一時中止していたが、見学会を随時開催している。
竹山 いわき市でレンタカーを借りて国道6号を走るのをお勧めだ。福島第一原発を遠くに見え、広々とした空気が気持ちいい。震災前は町があったという話に震災、津波の威力を改めて知ることができる。そして夜は温泉に入ってうまいものを食べて帰る。そんなツアーが組めればいいと思う。そして、こういうことがこれからはできるようになりたい。
榎山 生まれも育ちも九州で、正直、福島への関心は薄かった。いろいろな学び、知ったことで、今はぜひ現地へ行って確認したいと思っている。

Q 海外での風評被害はどうやって解消するのか?
山口 福島産の農産物に対して各国が輸入規制をかけていたが、科学的データに基づいて安全性を説明することで、徐々に規制も解かれ、あとわずかの国しか残っていない。これからは、福島のブランド力向上が大事だ。昨秋、英国で開かれたCOP26でも、福島の現状について大きな関心が寄せられた。確実な科学的データを示すことで、風評被害や偏見をなくしていくよう努めていく。

Q 除去土壌のことを議論するときに、経緯や現状の説明がないと全体像がわからない。
竹山 除去土壌の話だけではわからないのは当然。帰還困難区域のことも含め、福島で起きたこと、福島の現状を一つずつ説明し、全体像を分かってもらえることが大切だ。

間線量率の上昇も見られない。こういう実証事業を地道に積み重ねていきたい。

室石 中間貯蔵施設に搬入される除去土壌等の量は東京ドーム約11杯分。その4分の3は放射能濃度が8千ベクレル以下の除去土壌で、そのまま再生利用が可能残り4分の1は8千ベクレルを超えてそのまま再生利用はできない。しかし、これをすべてそのまま福島県外で最終処分するとは限らない。さまざまな処理を加えることで、8千ベクレルを超えるものについてもさらに分離することができるとはならないかと現在、技術開発中だ。たとえば1キログラムあたり1万ベクレルの土壌を、ごく少量の10万ベクレルの土と大部分の千ベクレルの土に分ければ、大部分をより再生利用に回しやすくなる。研究、技術開発を進めることで、県外最終処分の数値は変わっていくと思われる。

高村 今なお故郷に帰れずにいる福島の避難者は3万3千人いる。飯館村長泥地区や双葉町の住民、中間貯蔵施設のために土地を提供した方もいる。そういう方々の思いを感じ、福島に何ができたかというのを少しでも考えていただきたい。

榎山 AIの発達で自分の興味ある情報は簡単に抽出され、県外最終処分や除染など、ふだん耳にしない話題はなかなか入ってこない。若者に届く効率的な情報発信が必要だと思う。また、今日の話を通じて、受動的に情報を得るので

山口 誰かが何とかするだろうでは、誰もしない。自分たちが何とか背負っていくというところで初めて解決できる。日本全体の「我が事」としてみんなで背負っていくように、科学的なデータを提示しながら、気持ちと力を合わせていきたい。

最終処分の鍵は再生利用

環境省 環境再生・資源循環局長 室石 泰弘

2011年の原発事故を受け、福島県の12市町村で住民に避難指示が出された。放射線量を下げ、生活環境を取り戻すために除染を実施して福島空間線量率は年々減少。現在では海外の主要都市とほぼ同水準になっている。除染によって発生した大量の除去土壌は、福島県大熊町、双葉町の中間貯蔵施設に運ばれている。受け入れの際には、地元に変重い決断をいただいた。除去土壌は膨大な量のため、最終処分実現には再生利用が鍵となる。再生利用の安全を確かめる実証事業を同県飯館村長泥地区で実施。農地の盛土造成に除去土壌を用いて、花や野菜などを栽培している。放射線濃度の測定結果、基準値を十分に下回っている。多くの方にこの問題を知っていただき、共に考えていきたい。

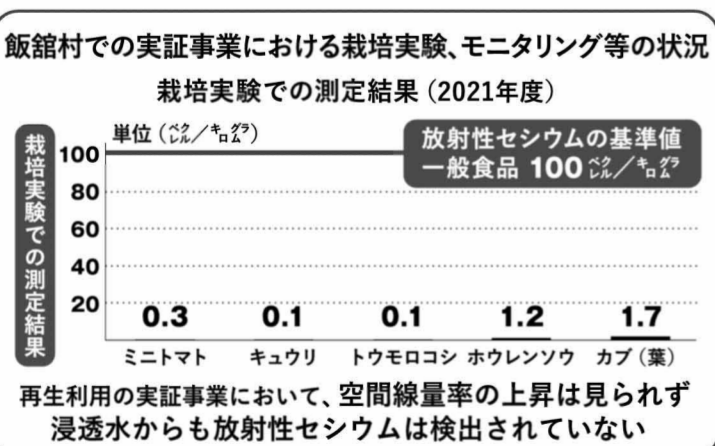
再生利用までの流れ(飯館村長泥地区のケース)

1. 分別する 大型土のう袋単位で8,000ベクレル/キログラム以下と8,000ベクレル/キログラム超に分別する。

2. 袋を破る 8,000ベクレル/キログラム以下の除去土壌の入った大型土のう袋を機械で破り、土壌を取り出す。

3. 異物を取り除く 回転式のふるいなどを用いて、草や金属等を取り除く。必要に応じて品質調整も行う。

4. 造成する 放射線濃度を確認した上で、造成工事の資材として利用する。その後、覆土を行う。



こうして行う再生利用
再生利用では除去土壌の放射能濃度が8,000ベクレル/キログラム以下という考え方が示され、作業員や周辺住民の被ばく線量が年間で1ミリシーベルトを超えないことが条件。中間貯蔵施設に搬入された除去土壌のうち約4分の3が8,000ベクレル/キログラム以下、適切に管理できる公共工事などで再生資材として用いられ、さらに50センチの覆土などをかぶせて飛散・流出の防止などを実施し再生利用される。このような方法で、放射線量は99%以上カットできる。

最終処分の鍵は再生利用
環境省 環境再生・資源循環局長 室石 泰弘
2011年の原発事故を受け、福島県の12市町村で住民に避難指示が出された。放射線量を下げ、生活環境を取り戻すために除染を実施して福島空間線量率は年々減少。現在では海外の主要都市とほぼ同水準になっている。除染によって発生した大量の除去土壌は、福島県大熊町、双葉町の中間貯蔵施設に運ばれている。受け入れの際には、地元に変重い決断をいただいた。除去土壌は膨大な量のため、最終処分実現には再生利用が鍵となる。再生利用の安全を確かめる実証事業を同県飯館村長泥地区で実施。農地の盛土造成に除去土壌を用いて、花や野菜などを栽培している。放射線濃度の測定結果、基準値を十分に下回っている。多くの方にこの問題を知っていただき、共に考えていきたい。

フォーラムの動画ほか、関連情報はここから
環境省HP 「福島、その先の環境へ。」
http://shiteihaiki.env.go.jp/fukushimairai/sonosaki/

